

<真剣味> 1 1 8

2022. 12. 4

- ・夢は進むべき道を照らしてくれる人生の灯台
- ・たくさん傷ついた木こそ立派な幹をもつ
- ・日々の努力がいつか必ず花を咲かせる
- ・自分に合った歩幅で歩めばいい
- ・大きく深呼吸気持ち新たに
- ・明日はきっと良くなる、まずは信じる
- ・優しく笑って和む穏やかな日々に
- ・立ち止まってひと息ついてまた進もう
- ・あと一步の踏ん張りが成長する一步になる
- ・あせらない、あせらない、いまは熟成期間中

【五十嵐修さんとお別れ】

- ・人には出会いと別れがある。

五十嵐さんは一時期大病を患い、その際に先進医療を受けて、元気な体に回復されました。そして、元審判長という立場から保護者審判員のスキルアップ向上のため、練習試合でよく指導されている姿を何度も拝見することができました。

そんな元気な様子しか感じられず、突然亡くなられたという事実を聞き、言葉を失いました。別れは寂しいですが、五十嵐さんの頑張っている姿は我がチームのメンバーの心に残っています。ありがとうございました。ゆっくりおやすみください。

【大学の監督との本当の別れ】 名古屋1日目

- ・「うーん、その君」から「フジイ君」と監督から呼ばれた私の歴史です。

あれから40年。私にとって愛知県(豊田市)は有難い思い出しかありません。その中でいかに監督に名前を覚えてもらえる選手になるか!まずはそこが大変でした。だから1人、または仲間同士でもよく練習しました。その甲斐あって4年生の春季大会からベンチに入り、「フジイ君」と呼んでももらえるようになり、代打から選手としての良いスタートを切ることができました。中京大学での4年間、充実した野球部での生活を送ることが出来ました。

監督の指導に感謝し、亡くなられた監督の冥福を祈り、名古屋東別院で手を合わせました。

【久々の大学とその周辺をめぐる】 名古屋2日目

- ・午後2時頃大学の野球部グラウンドに出向くことができました。そこには四大綱が掲げてありました。活動の計画・実行そして反省を繰り返しチームのレベルアップに努めていたようです。その日、私が見たのは個人練習ですが、少ない人数でも黙々と課題解決の練習をしておりました。やはり愛知六大学1部で優勝を争うチームの練習風景と思いました。
- ・あれから40年。学生時代よく通った店を探したがさすがに、なくなっていました。残念。但し寮の大家さんが経営している食堂だけは残っていました。ほっとしました。そして新潟・佐渡と言ったら直ぐにフジイ君と反応してくれました。ほっとしました。

名古屋3・4日目

【学びの多かった愛知遠征】尾張一宮リトルシニア会長杯争奪野球大会

<予選リーグ> 対伊北シニア○13対1、対知多東浦シニア×4対6 【会場: 中京大中京高校】

<親善試合> 対高岡シニア○11対9

【会場: 至学館高校】

- 身体の迫力の違いを感じた。(特に知多東浦シニア)
- 大事な時のミス・得点した後の失点が気になった。
- 打撃のミートは良かったが、更にひと伸びが欲しい。

「挨拶◎、時間を守る・準備○、フォロワーの動き□、マナー○、移動○」

△試合中、夢中になる自分と冷静な自分をしっかり持ってプレーする。

△打撃では今より伸びる打球が打てる強いスイングを会得する。

△選手同士が本当に、気軽に声を掛け合い、励まし合い、共に成長する。

△自分の得意なプレーを身に付ける。

△完全な取組でなくとも、決めたことは、とにかく続ける。